令和５年度　東京の農業振興に向けた専門懇談会（第１回）

次第

日　時　：令和５年７月 21 日（金）
15 時 00 分～17 時 00 分
場　所　:都庁第一本庁舎 42 階特別会議室 CD

１　開会

２　知事挨拶

３　出席者紹介

４　議事

（１）プレゼンター―による発表

株式会社ビビッドガーデン代表取締役社長　秋元里奈氏

（２）質疑応答

（３）意見交換

議題　　東京の農業振興に向けた振興施策等について

（４）その他

5　閉会

資料１

東京の農業振興に向けた専門懇談会　委員名簿

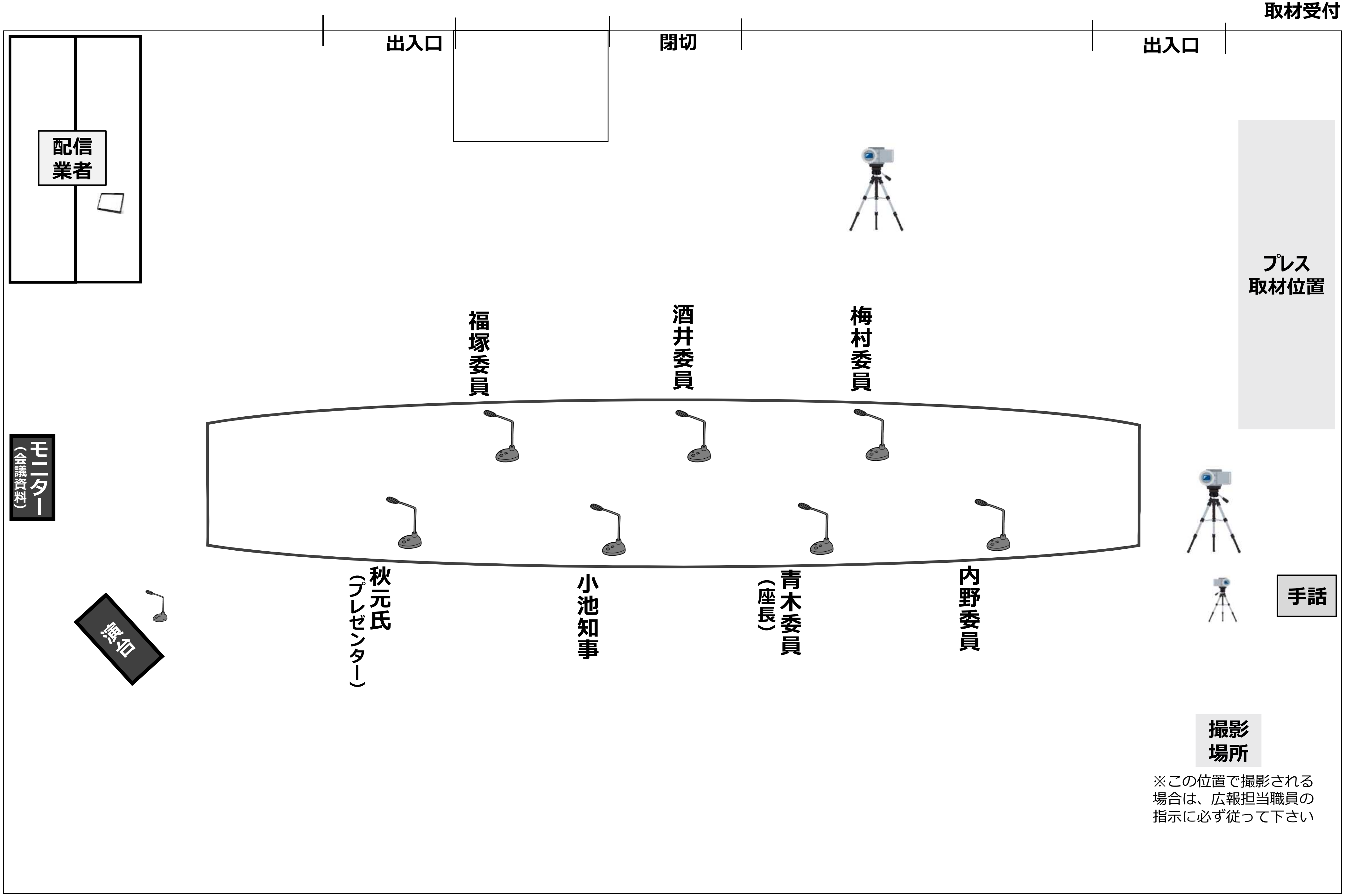
（五十音順・敬称略）

所属等	氏　名
有限会社ベネット　代表取締役	青木（あおき）　隆夫（たかお）
東京家政大学　ヒューマンライフ支援機構 教授	内野（うちの）　美恵（みえ）
株式会社ネイバーズファーム　代表取締役	梅村（うめむら）　　桂（けい）
株式会社 NTT アグリテクノロジー 代表取締役社長	酒井（さかい）　大雅（たいが）
三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング 公共経営・地域政策部　主任研究員	福塚（ふくつか）　祐子（ゆうこ）

東京の農業振興に向けた専門懇談会　プレゼンター（基調講演）

所属等	氏　名
株式会社ビビッドガーデン 代表取締役社長	秋元（あきもと）　里奈（りな）

第1回東京の農業振興に向けた専門懇談会：7/21(金)15:00～17:00 @第一本庁舎42階北 特別会議室C・D

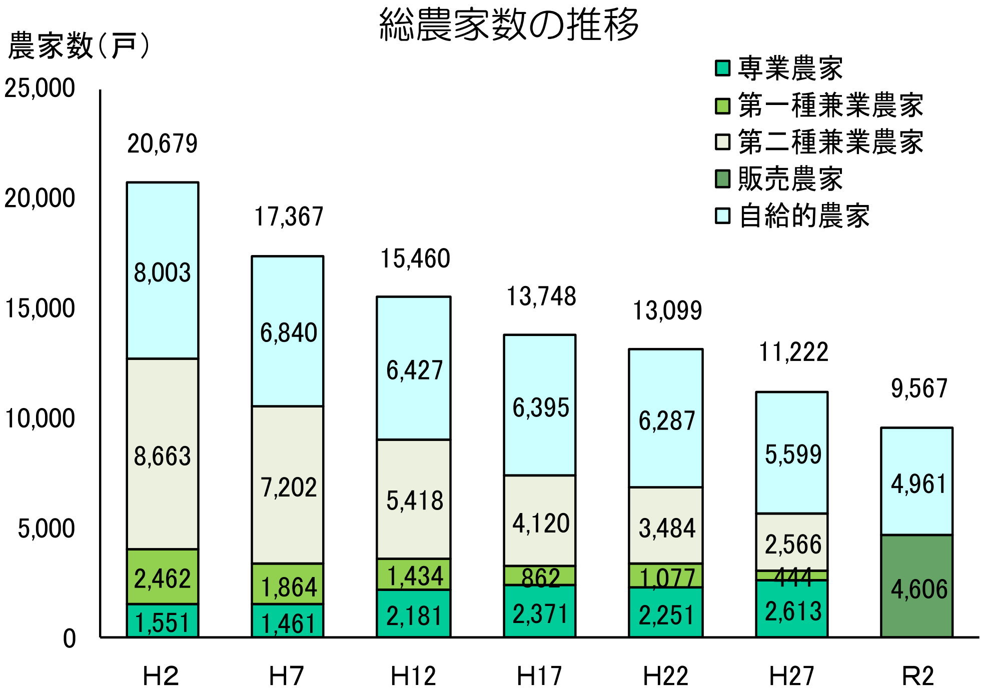


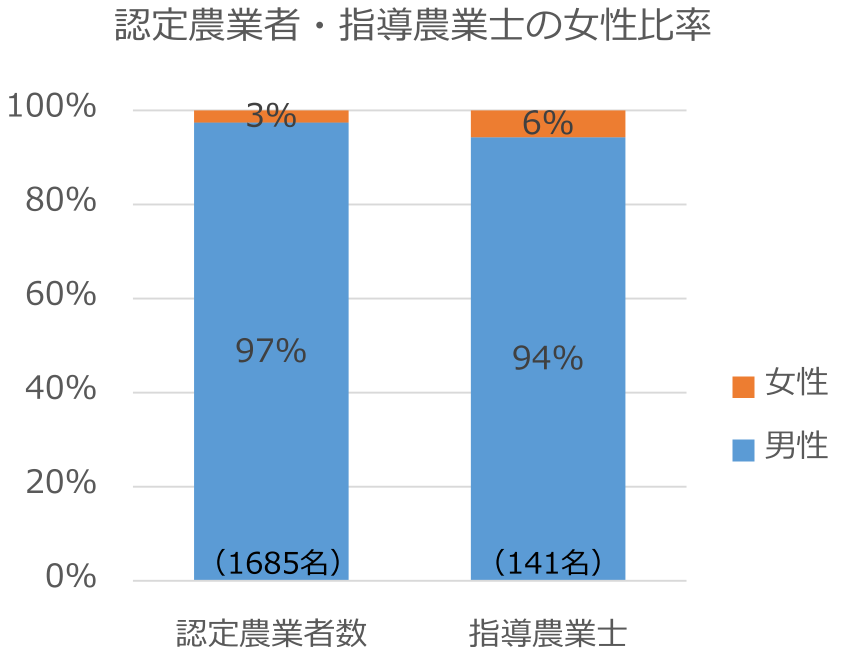
東京の農業振興に向けた専門懇談会　第1回

東京農業の現状・課題

東京農業の現状と課題　担い手確保・女性の農業経営への参画

【現状】
- 総農家数は令和２年に9,567戸となり、調査開始以来、初めて１万戸を割り込む
- 女性の経営参画は僅か





認定農業者：区市町村の示す基準に適合するとして、自治体からの認定を受けた者
指導農業士：都道府県知事から認定された、指導的役割を果たしている農業者

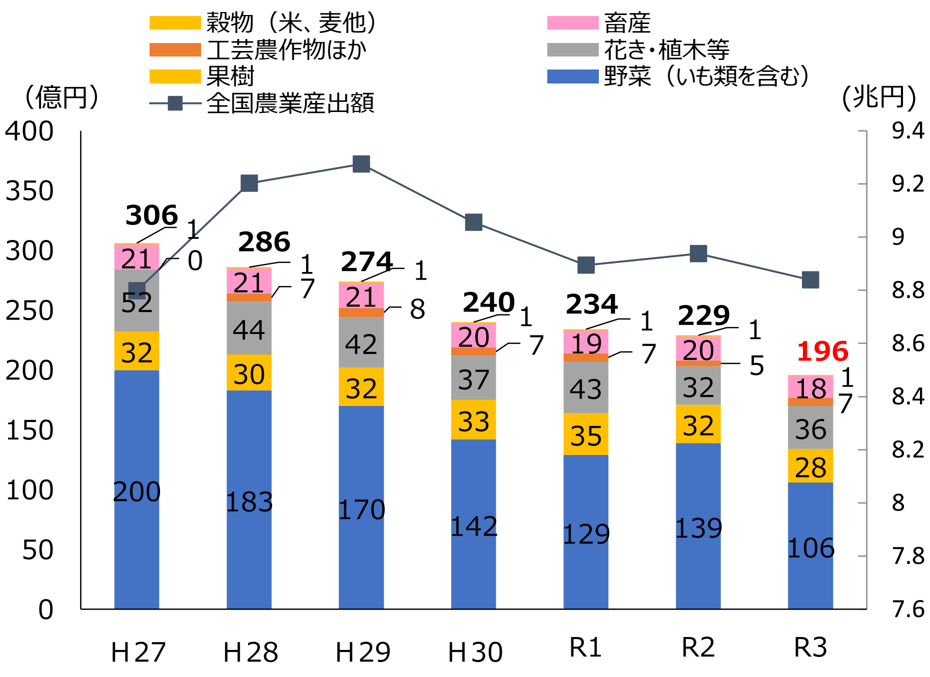
【課題】
- ○ 農外からの新規就農の促進
- ○ 新たに農業者となった方に対する定着支援策の充実
- ○ 女性農業者の技術向上や経営・意思決定層への参画促進

東京農業の現状と課題　農産物のブランド化の推進

【現状】

- 東京都では野菜生産額が最も多く、令和３年の農業生産額は全国的な価格の低迷などにより200億円を初めて下回った
- 東京農業を牽引するブランド農産物が少ない

農業生産額の推移



ブランド農産物の現状

北多摩を中心に生産されている「東京うど」は、料亭などを中心に需要がある

これまでのレモンの常識を覆す「八丈フルーツレモン」はブランド農産物として島内産業の活性化に貢献している

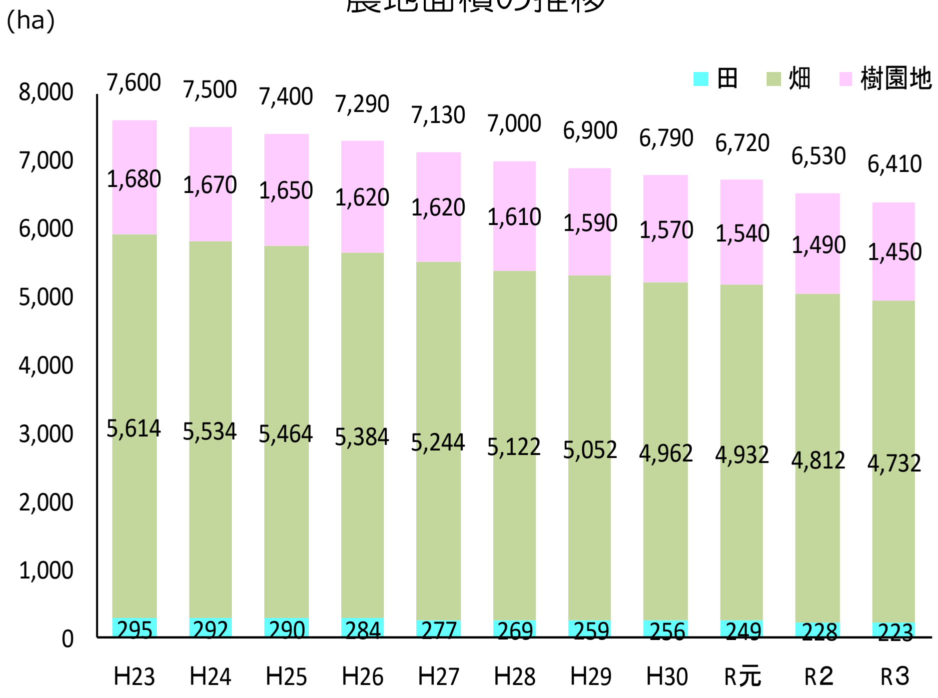
【課題】　○ 農業生産額のV字回復に向けた効果的な方策の展開
　　　　○ ブランド化の推進による稼ぐ農業の実現（高付加価値化）

東京農業の現状と課題　農業振興地域の活性化

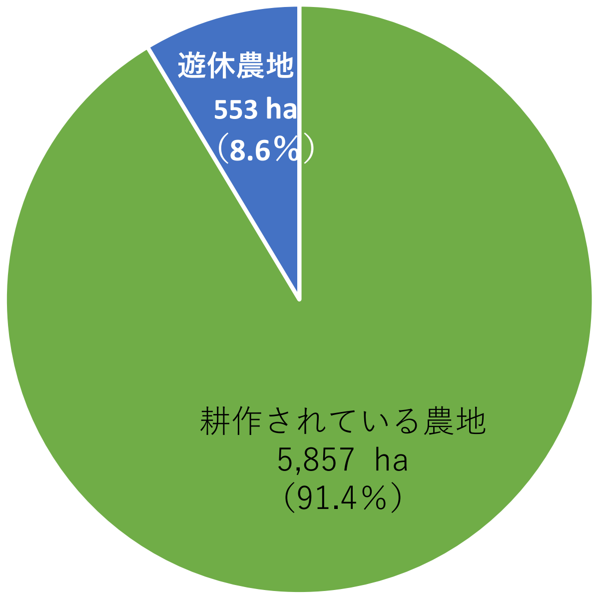
【現状】

- ➢ 令和３年の農地面積は6,410haであり、10年間で1,190ha（減少率15.6%）の農地が減少
- ➢ 農業振興地域を中心に、都内には遊休農地は553ha存在し、農地全体の8.6%を占める

農地面積の推移



農地面積に占める遊休農地（令和3年度）



【課題】　○ 農業振興地域等、まとまりのある農地の利活用推進
　　　　　○ 農地の貸し手と借り手のマッチングの更なる促進

東京農業の現状と課題　スマート農業の加速化

【現状】

- 東京フューチャーアグリシステムや栽培圃場管理のアプリなど、経営改善に資する実用可能な技術を開発
- スマート農業技術の生産現場への実装を推進

東京フューチャーアグリシステム

栽培圃場管理アプリ

直売所等経営管理アプリ

遠隔栽培指導

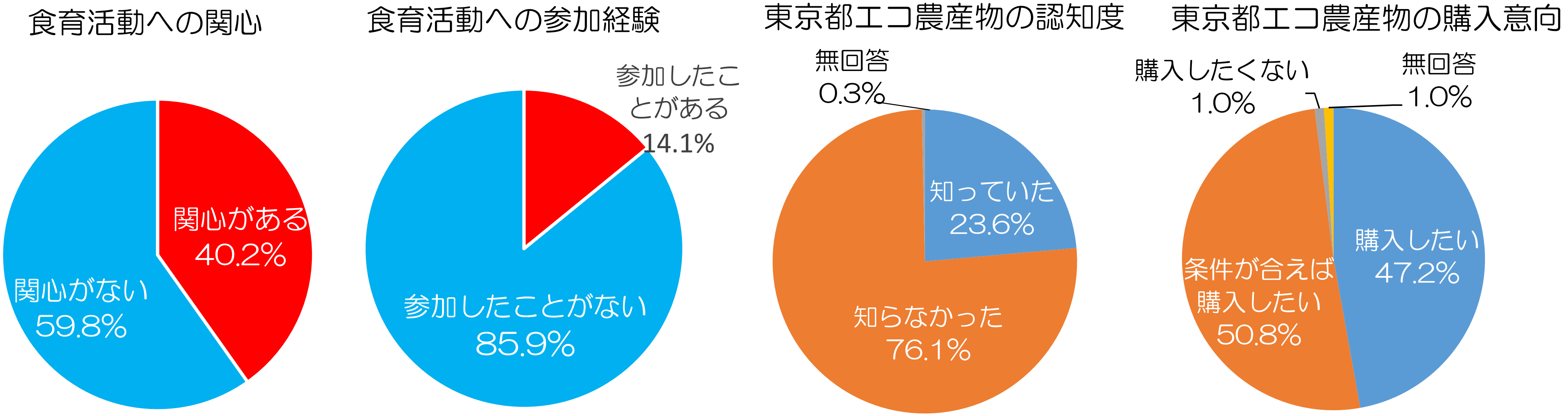
Wi-Fi技術を活用した圃場管理システム

【課題】
○ 東京型スマート農業の実装の加速化
○ 開発と利用場面とのシームレスな関係性の構築
○ 次代の東京農業の活性化に繋がる新たな技術開発

東京農業の現状と課題　食育・地産地消の推進

【現状】

- 食育に関心を持つ都民の割合は約４割にとどまっている。
- 都が認証するエコ農産物を知っている都民の割合は約２５%であるが、化学肥料や農薬を低減した農産物を購入したいと考えている都民の割合は９８%にのぼる。



(出典)「東京都食育推進計画に関する指標調査（令和２年度)」(産業労働局)

(出典)「東京都エコ農産物の販売実態及び今後の販売方向性等に関する調査委託 (令和４年度)」(株式会社 流通研究所)

【課題】　○都民の食育への関心の喚起
○エコ農産物など東京産農産物の認知度を高め、生産を拡大し販売を促進